

平成28年12月期第2四半期決算説明会

「ゼロ」からのモノづくりサポート企業

お客様がお持ちの物作りに関するお悩みを、
我々の「技術力」「製造力」「調達力」が解決致します。

株式会社 大日光・エンジニアリング (証券コード:6635)

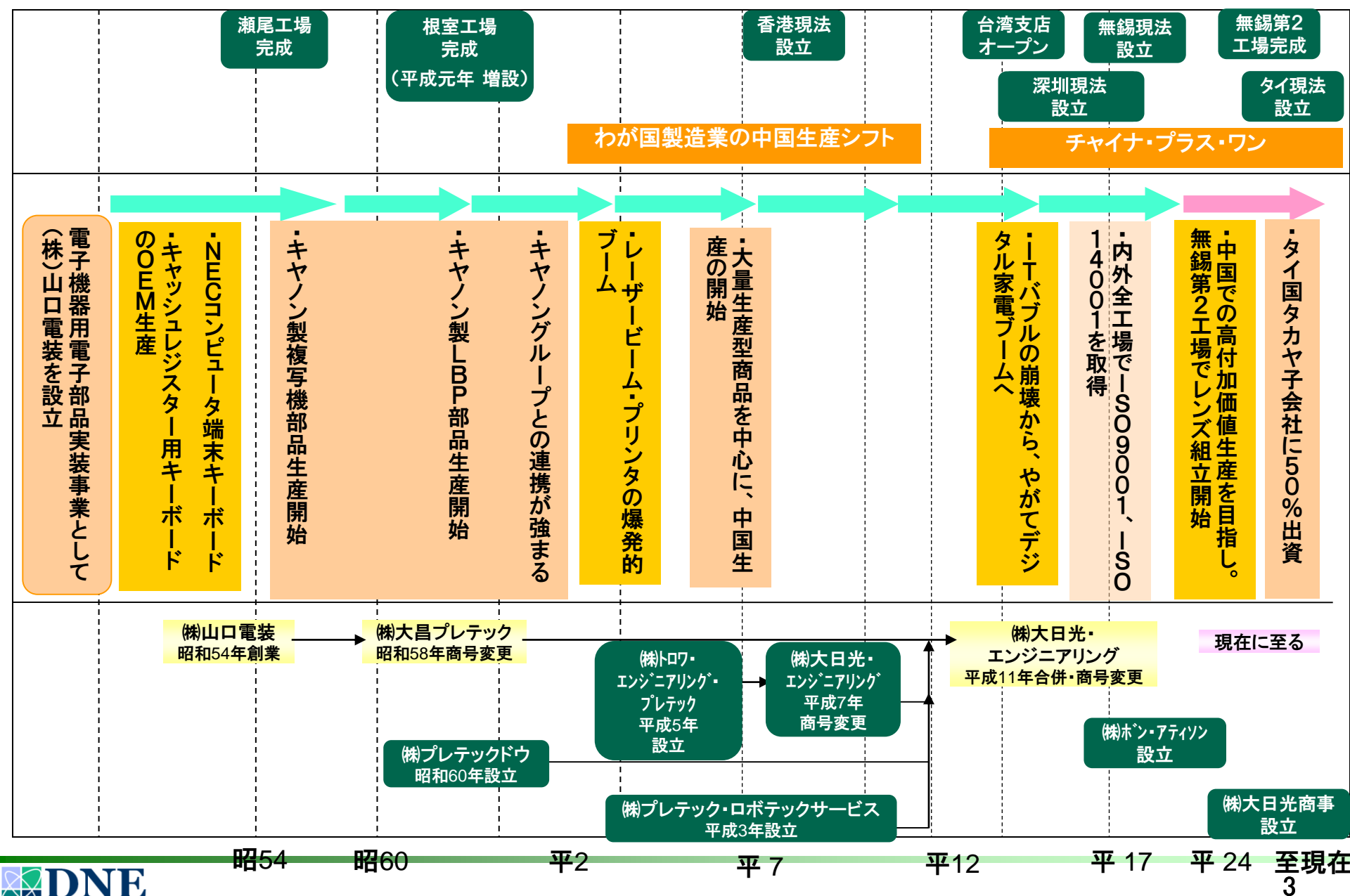


平成28年8月25日
代表取締役社長
山口 侑男

- ➔ **会社概要/沿革等** P. 2 ~ 5
- ➔ **経営成績概要/分析** P. 6 ~ 17
- ➔ **業績予想** P.18
- ➔ **中長期的な会社の経営戦略**
..... P.19 ~ 22

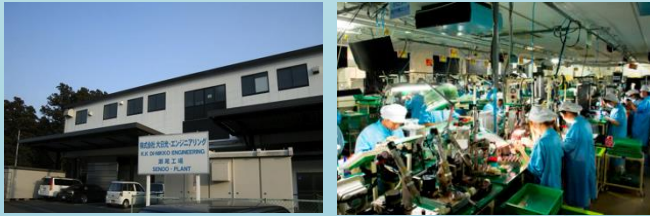
会社概要

- ◆ 会社名 株式会社 大日光・エンジニアリング
- ◆ 英訳名 Di-Nikko Engineering Co.,Ltd.
- ◆ 代表者 代表取締役社長 山口 侑男
- ◆ 本社所在地 栃木県日光市瀬尾33番地5
- ◆ 設立 昭和54年9月
- ◆ 公開市場 東京証券取引所JASDAQ(証券コード:6635)
平成19年3月上場
- ◆ 資本金 8億5,630万円(平成27年12月末現在)
- ◆ 従業員数 単独 220人 連結 1,636人(平成27年12月末現在)
- ◆ 主要業務 電子部品実装を核とするエレクトロニクス製品の受託加工事業
基板設計から、最適部品の調達、技術者の派遣、製造、物流までのサービスを一貫して提供
- ◆ 連結子会社 国内2社、海外4社(平成27年12月末現在)
- ◆ 持分法適用関連会社 海外1社 (")



DNEグループ国内拠点 - Domestic Locations-

瀬尾工場 昭和54年生産開始



- 精密機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス10000 有人時)
- 工場面積2,600㎡
- 今市インターより10分(今市警察署斜め向かい)

杉の郷工場 平成22年生産開始



- 基板実装生産工場、その他
- SMT 5LINE
- 工場面積3,200㎡
- 大沢インターより15分 (杉の郷カントリー横)

轟工場 平成23年生産開始



- 精密光学機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス5000 有人時)
- 工場面積5,500㎡
- 今市インターより20分 (大日光工業団地内)

根室工場 昭和60年生産開始



- 本社機能、調達拠点、設計拠点、基板実装生産工場
- SMT 6LINE
- 工場面積6,000㎡
- 大沢インターより10分(県青少年スポーツセンター向かい)



DNEグループ海外拠点 - Overseas Locations -

TROIS ELECTRONICS(WUXI)CO.,LTD.



第一工場



第二工場

- 第一 ■ 江蘇省無錫新区開發区内
- 第二 ■ 上海虹橋空港より車で1.5時間

NEW TROIS ELECTRONICS(SHENZHEN) LTD. 福永工場

彩煌（深圳）龍華第二工場



福永工場



彩煌工場

- 福永 ■ 広東省深圳市宝安区福永工業団地内
- 深圳宝安空港より車で15分
- 彩煌 ■ 広東省深圳市龍華区
- 香港-深圳国境地点より車で30分

TROIS THAILAND CO., LTD.



- チョンブリ県
- シーラーチャー郡
- ピントン工業団地
- フェーズⅡ



TROIS ENGINEERING PRETEC HK LTD.



- 香港事務所・倉庫
- 香港新界沙田
- KCR石門駅より徒歩5分

平成28年第2四半期連結経営成績概要

連結損益計算書

(単位:百万円)	平成27年 第2四半期	対売上高比率	平成28年 第2四半期	対売上高比率	対前年 増減	対前年 比率
売上高	17,173	100.0%	12,799	100.0%	△ 4,374	△25.5%
売上原価	16,089	93.7%	11,640	90.9%	△ 4,449	△27.7%
売上総利益	1,084	6.3%	1,158	9.0%	74	6.8%
販売費及び一般管理費	1,106	6.4%	934	7.3%	△ 172	△15.6%
営業利益又は 営業損失(△)	△ 22	△0.1%	224	1.8%	246	-
営業外収益	72	0.4%	85	0.7%	13	18.1%
営業外費用	94	0.5%	122	1.0%	28	29.8%
経常利益又は 経常損失(△)	△ 44	△0.3%	187	1.5%	231	-
特別利益	13	0.1%	1	0.0%	△ 12	△92.3%
特別損失	28	0.2%	5	0.0%	△ 23	△82.1%
税金等調整前四半期純利益 又は四半期純損失(△)	△ 59	△0.3%	183	1.4%	242	-
法人税等	20	0.1%	52	0.4%	32	160.0%
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△ 79	△0.5%	131	1.0%	210	-

連結経営成績に関する分析(第2四半期累計売上高)

(1) 日本の売上高:4,399百万円(前年同期比14.4%減)

- 【要因】
- ・ オフィス・ビジネス機器用・・・新興国の景気低迷の影響を受け需要が停滞
 - ・ 社会生活機器用・・・多機能携帯電話による市場席捲で需要が停滞
 - ・ 遊技機向け・・・生産見込みのずれ込みの影響などから低調に推移
 - ・ 産業機器用・・・半導体用向け露光装置等が増加
 - ・ 業務請負・人材派遣子会社・・・社会生活機器用停滞から漸減、オフィス・ビジネス機器販売もほぼ横這い

(2) アジアの売上高:8,399百万円(前年同期比30.2%減)

- 【要因】
- ・ 香港・中国深圳子会社・・・オフィス・ビジネス機器用の需要低迷の影響が顕著
 - ・ 中国無錫子会社・・・産業機器用・社会生活機器用生産は増加
 - ・ タイ子会社・・・量産に向けた体制を構築中だが、本格稼動にいま少し時間を要する段階



連結売上高:12,799百万円(前年同期比25.5%減)

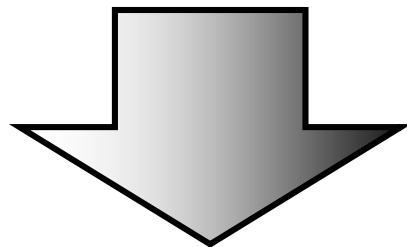
連結経営成績に関する分析(第2四半期累計損益)

(1) 連結営業利益:224百万円(前年同期は22百万円の損失)

損益面では、売上高減少から引き続いて苦戦を強いられる状況が続いているものの、国内外における生産革新運動の継続的な展開による製造経費削減効果と販管費削減活動の成果が現れてきた。

(2) 連結経常利益:187百万円(前年同期は44百万円の損失)

営業外損益は、支払利息削減等により費用圧縮を図るも、タイの持分法適用関連会社で損失計上。



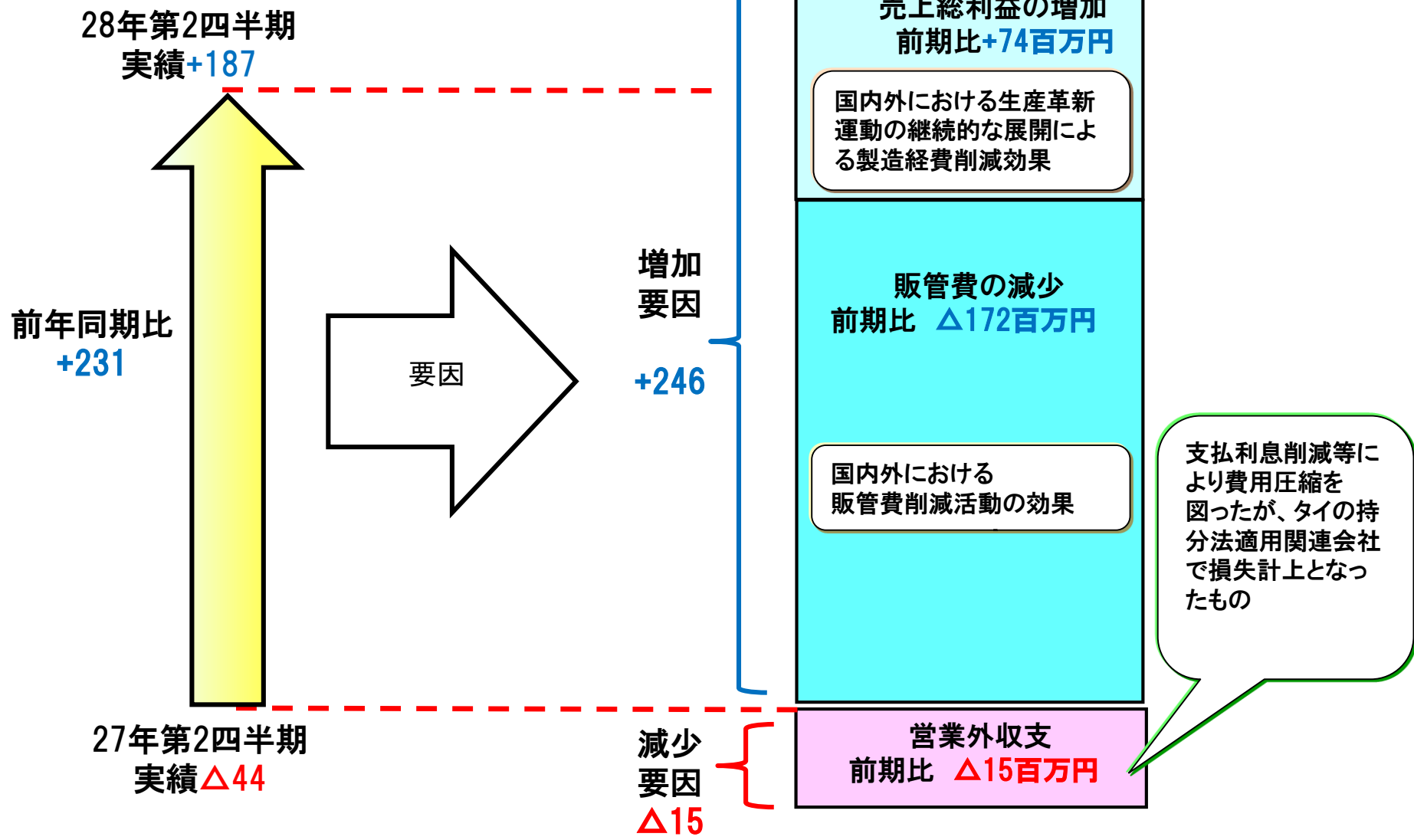
上記に加えて、特別利益として固定資産売却益、特別損失として固定資産除却損、法人税等を加減。

四半期純利益:131百万円(前年同期は79百万円の損失)

連結経常利益増加要因分析

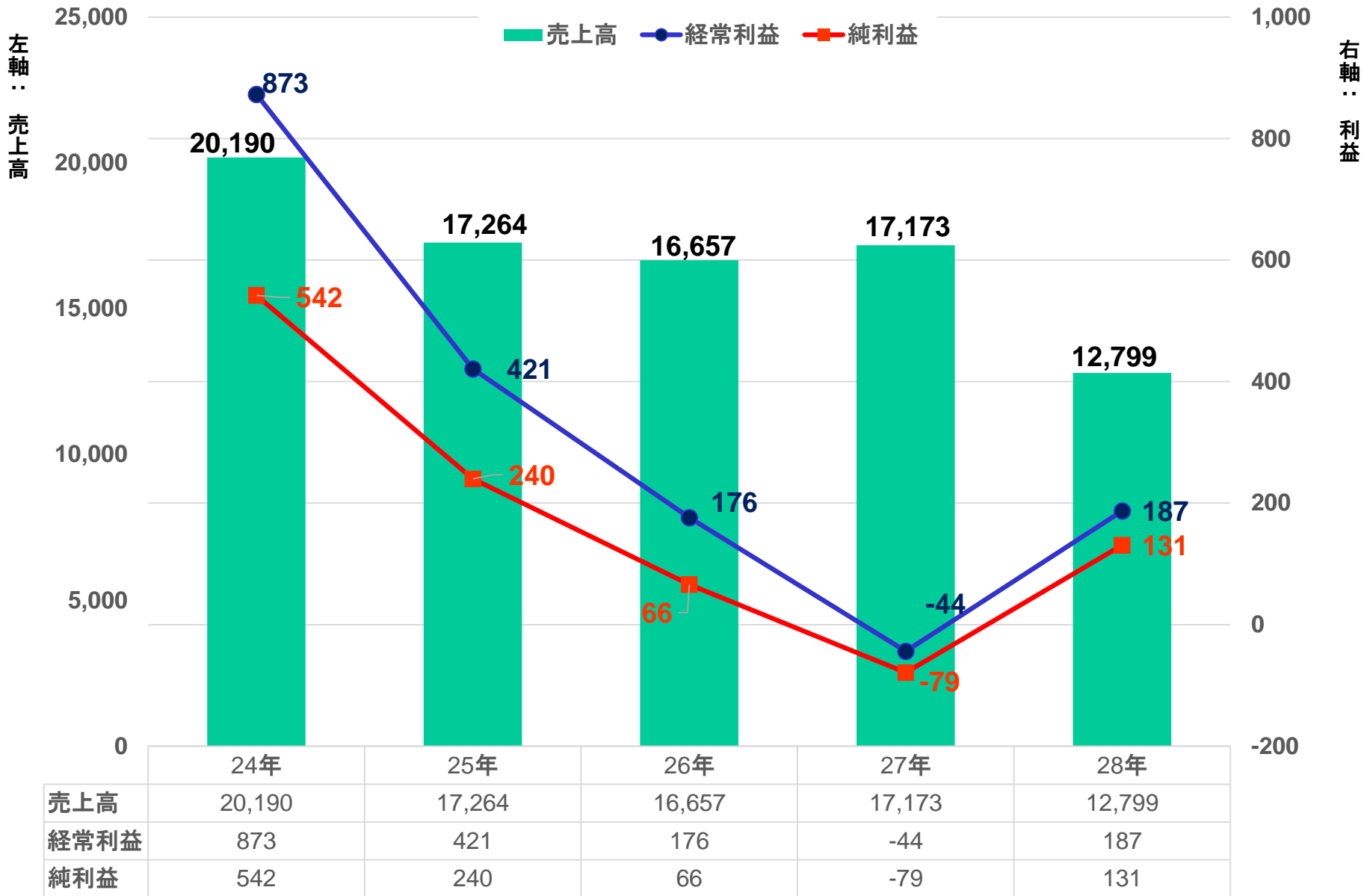
(単位:百万円)

経常利益



連結業績推移(第2四半期累計)

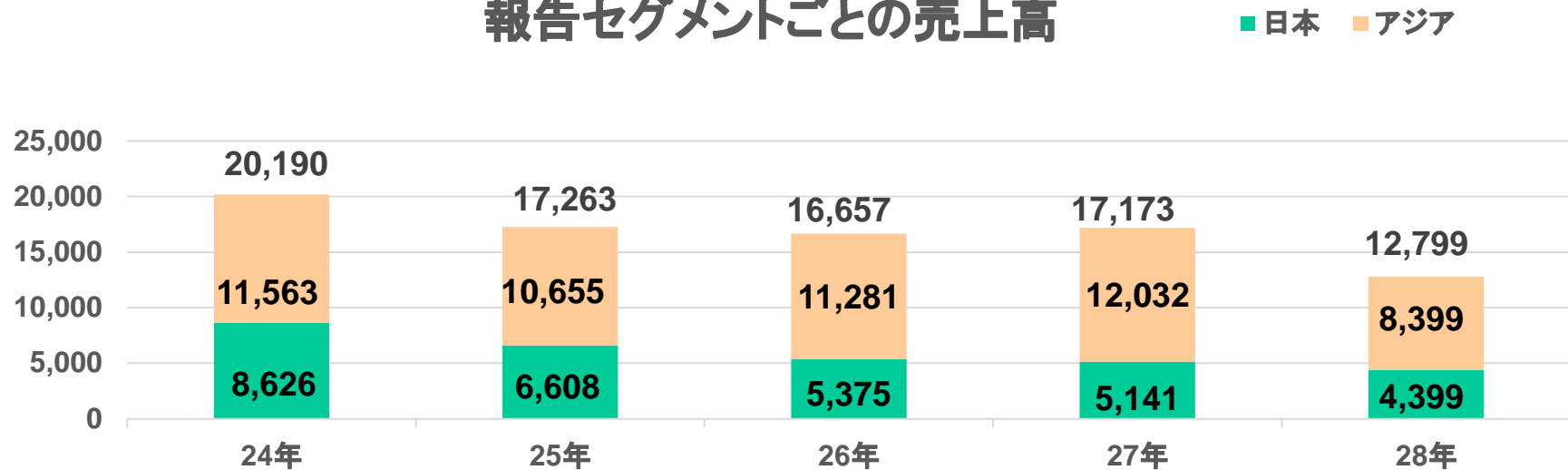
(単位:百万円)



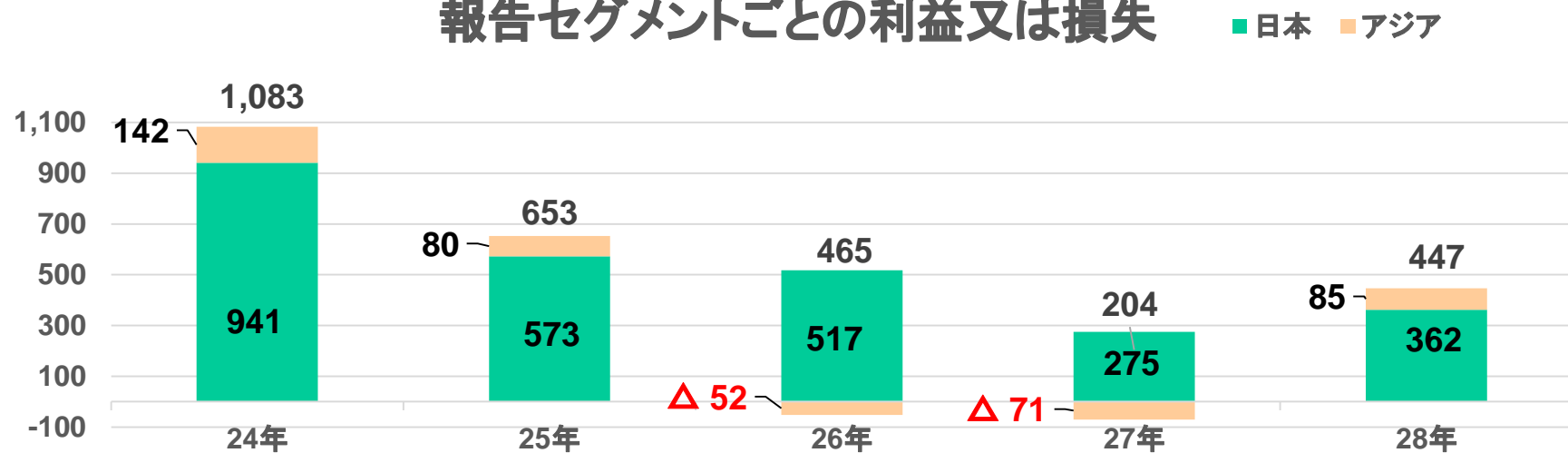
報告セグメントごとの第2四半期累計売上高及び利益又は損失の金額推移

(単位:百万円)

報告セグメントごとの売上高



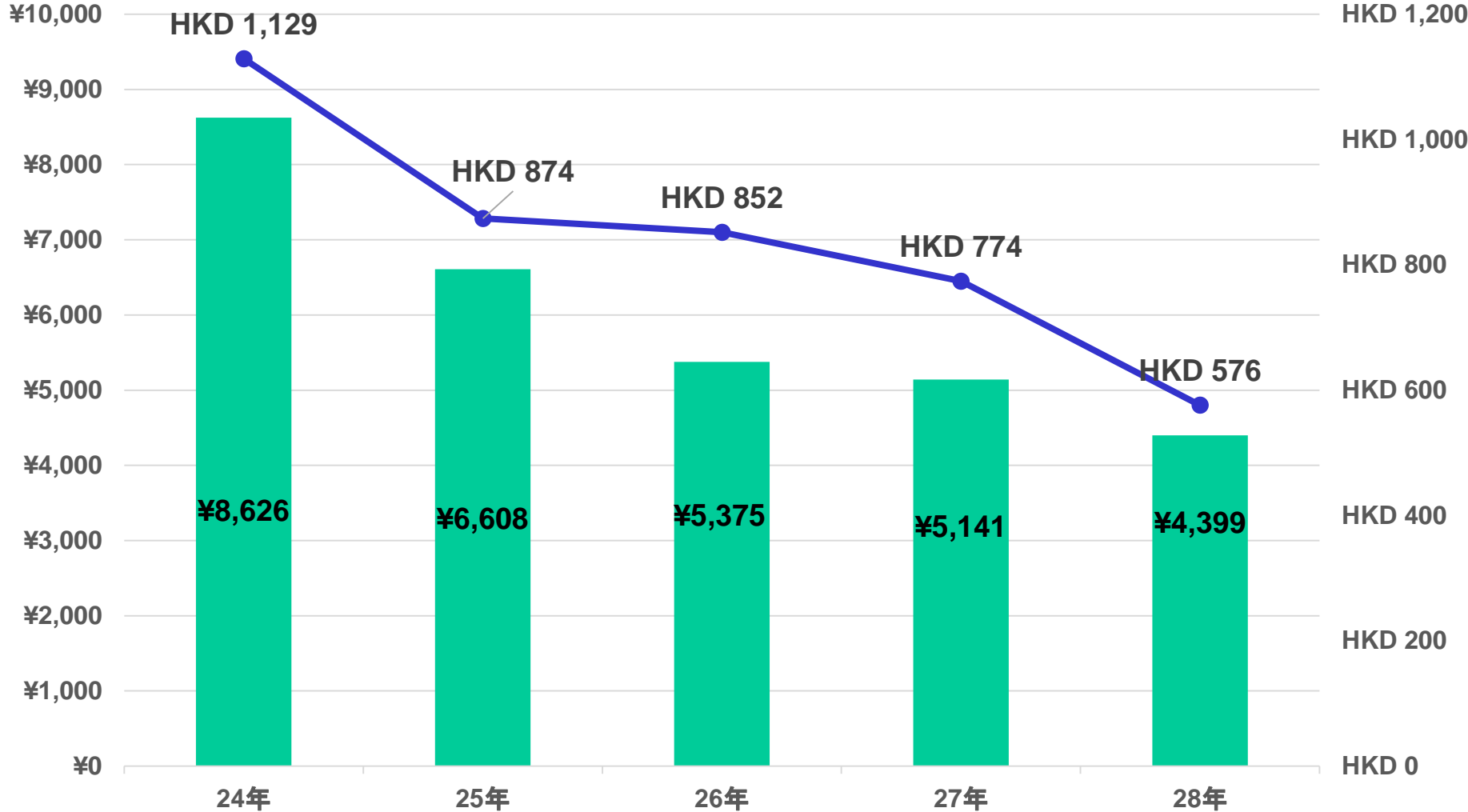
報告セグメントごとの利益又は損失



現地通貨で見たセグメントごとの第2四半期累計売上高動向

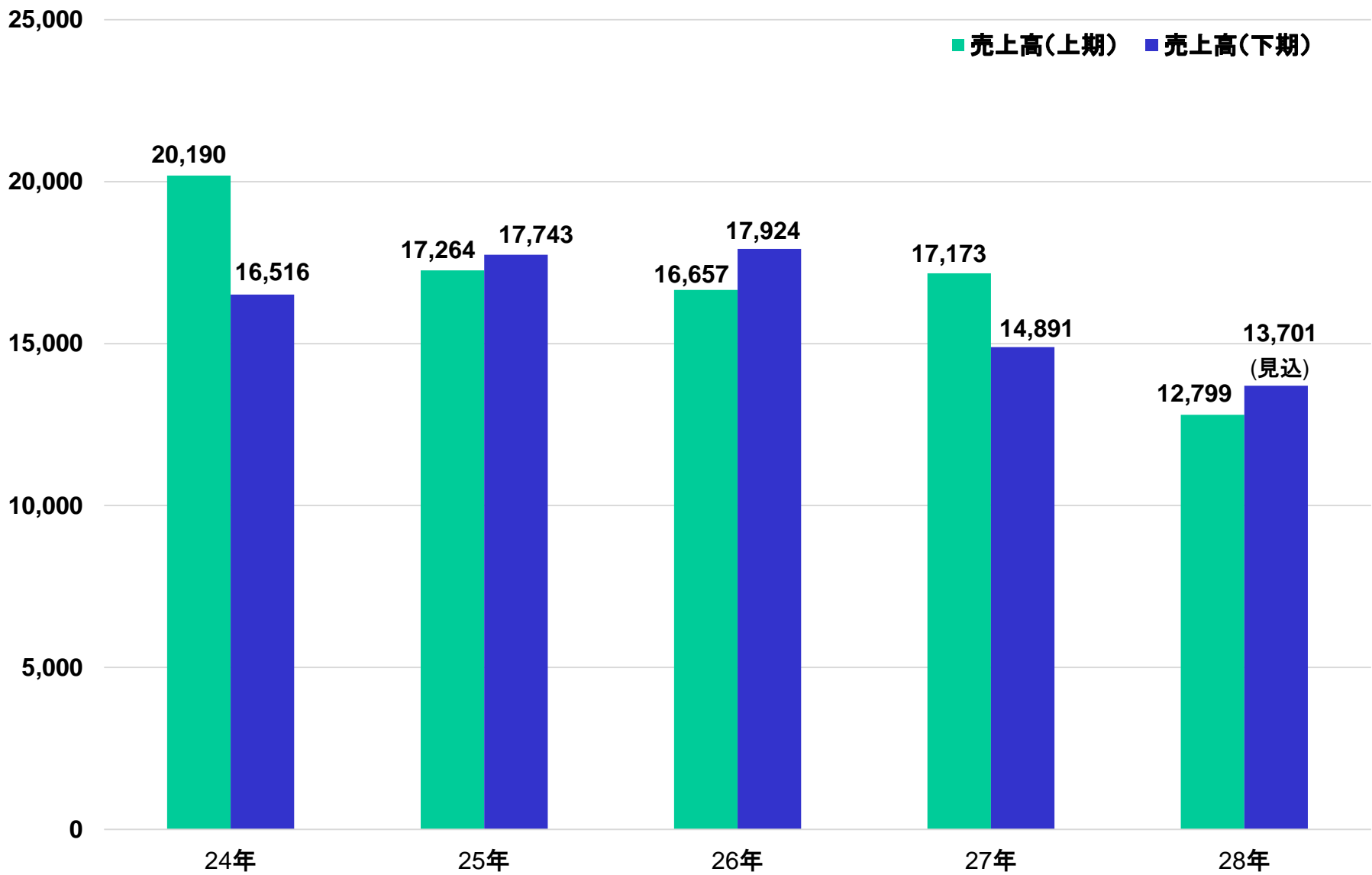
(単位:百万円、百万HKD)

■ 日本 ● アジア



上期・下期別売上高動向

(単位:百万円)



連結貸借対照表(主な勘定の増減)

(単位:百万円)

		平成27年 12月31日	平成28年 6月30日	増減			平成27年 12月31日	平成28年 6月30日	増減
資産	現金及び預金	1,654	3,347	1,693	負債	支払手形及び 買掛金、でんさい	4,492	4,410	△ 82
	受取手形及び 売掛金、でんさい	5,666	5,410	△ 256		短期借入金	1,821	2,400	579
	棚卸資産	4,494	3,774	△ 720		1年内返済予定 長期借入金	2,045	2,118	73
	その他	503	307	△ 196		その他	1,080	937	△ 143
	流動資産	12,319	12,839	520		流動負債	9,439	9,867	427
有形固定資産	3,736	3,336	△ 400	長期借入金	4,001	4,259	258		
無形固定資産	116	132	16	その他	162	126	△ 36		
投資その他	1,047	936	△ 111	固定負債	4,163	4,385	221		
固定資産	4,901	4,405	△ 495	負債合計	13,603	14,252	649		
				純資産	資本金	1,419	1,419	0	
					資本剰余金				
					利益剰余金	1,112	1,217	105	
					為替換算調整勘定	1,144	475	△ 669	
					その他	△ 58	△ 120	△ 62	
				純資産合計	3,617	2,992	△ 624		
資産合計	17,220	17,245	24	負債/純資産合計	17,220	17,245	24		

連結財政状態に関する分析(資産・負債及び純資産の状況)

(資産)

- **流動資産**:現金及び預金が増加した一方、受取手形及び売掛金並びに棚卸資産が減少
⇒ 前連結会計年度末比**520百万円増の12,839百万円**
- **固定資産**:減価償却による有形固定資産の減少及び持分法による投資損失の計上や時価の下落に伴う投資有価証券の減少等
⇒ 前連結会計年度末比**495百万円減の4,405百万円**

(負債)

- **流動負債**:1年内返済予定の長期借入金及び短期借入金が増加の一方、支払手形及び買掛金が減少
⇒ 前連結会計年度末比**427百万円増の9,867百万円**
- **固定負債**:長期借入金の増加等
⇒ 前連結会計年度末比**221百万円増の4,385百万円**

(純資産)

- **純資産合計**:利益剰余金が増加した一方、為替換算調整勘定が減少
⇒ 前連結会計年度末比**624百万円減の2,992百万円**

連結財政状態に関する分析(キャッシュ・フローの状況)

四半期連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財政活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 四半期末残高
28年第2四半期 連結累計期間	954	△ 166	1,143	3,347
27年第2四半期 連結累計期間	792	△ 205	659	3,519

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,692百万円増加し、3,347百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は下記のとおりであります。

A) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は954百万円(前年同期比162百万円増)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益183百万円の計上、たな卸資産の減少226百万円、仕入債務の増加401百万円及び未収消費税等の減少76百万円があったこと等によるものであります。

B) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は166百万円(前年同期比38百万円減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出91百万円及び短期貸付けによる支出46百万円があったこと等によるものであります。

C) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果獲得した資金は1,143百万円(前年同期比484百万円増)となりました。これは主に、短期借入金の純増868百万円及び長期借入金の純増330百万円があったこと等によるものであります。

平成28年第2四半期連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当り 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	13,400	40	△70	△70	△26.80
今回修正(B)	12,799	224	187	131	50.34
増減額(B-A)	△601	184	257	201	77.14
増減率	△4.5%	460.0%	-	-	-
(ご参考)平成27年 第2四半期実績	17,173	△22	△44	△79	△30

差異の理由

- 当第2四半期連結累計期間において、当社グループを取巻く経営環境は依然厳しい状況が続いておりますが、国内では産業機械用生産が高水準を維持したこと、海外においては中国両子会社の業績が回復基調にあることに加えて、国内外における生産革新運動の継続的な展開による製造経費削減効果と一般管理販売費削減活動の成果が出てきたことが主因で、第2四半期累計の各利益が平成28年2月12日付け決算短信で開示した第2四半期連結業績予想を上回ることとなりました。

平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当り 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	28,000	240	70	50	19.14
今回修正(B)	26,500	350	240	160	61.25
増減額(B-A)	△1,500	110	170	110	42.11
増減率	△5.4%	45.8%	242.9%	220.0%	220.0%
(ご参考)平成27年 12月期通期実績	32,064	△246	△664	△1,333	△504.40

- 国内では下半期社会生活機器用生産の増加が見込まれること、海外においてはタイ子会社の車載関連機器用の生産が本格化すること等を勘案し、平成28年12月期(平成28年1月1日～12月31日)の通期業績見通しを上記のとおりといたします。

利益分配に関する基本方針及び当期の配当

- 当社は、利益分配については将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としておりますが、利益配当につきましては経営基盤強化のための内部留保の蓄積状況を考慮しながら決定する所存であり、平成28年12月期の配当金は1株当り10円を予定しておりましたが、第2四半期連結業績予想数値、通期連結業績予想数値の修正に伴い、平成28年12月期の年間配当金は15円とし、中間配当金5円、期末配当金10円を実施する予定といたしました。

3力年中期事業計画の骨子

安定的な収益基盤の構築

顧客セグメント
多層化と
営業管理能力強化

- ① バランスの取れた製品ポートフォリオと高付加価値製品受注
- ② 顧客生産変動を素早くキャッチする体制

開発設計力・
部材調達力
強化

- ① デザイン・ハウス、購買機能に優れた企業とのアライアンス
- ② 部材購買力強化によるコスト削減

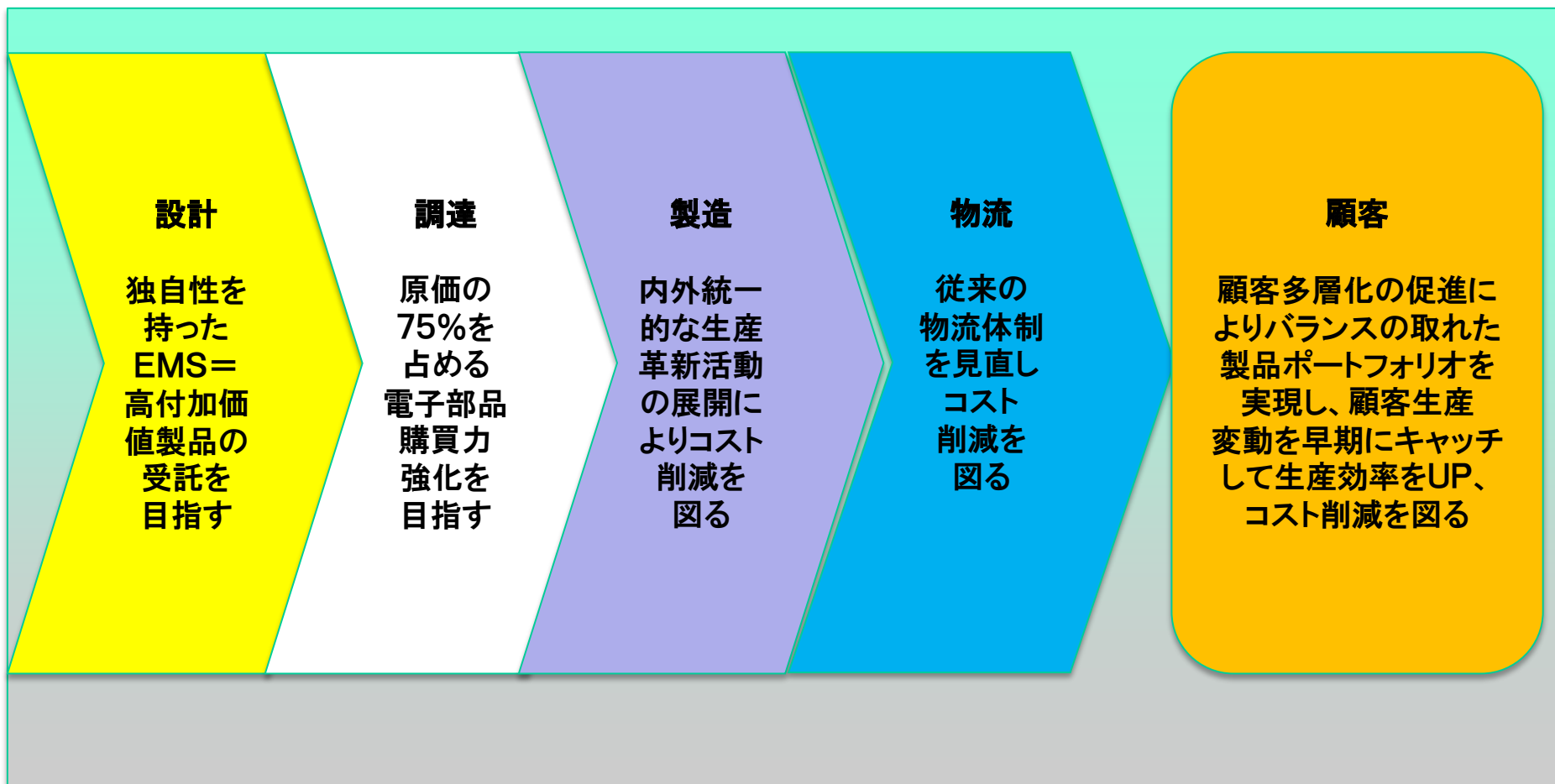
固定費削減の断行に
よるコスト削減

- ① 統一的生産革新活動によるコスト削減
- ② 緊急対応としての固定費削減

組織、コーポレート・
ガバナンスの
再編・強化

- ① 絞った形での取締役会による適格な経営判断
- ② 拠点トップ権限と責任の明確化による、迅速な業務執行

EMSという観点から見た課題整理



中長期的な会社の経営戦略(3力年中期事業計画-3)

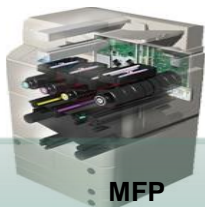
顧客多層化を図るための営業力強化

- 独自技術を持つEMSという立ち位置を確保することを目的として既存の電源開発機能を強化し、高付加価値製品を手掛けるEMSを目指す。
- 一方で従来型のEMS機能を強化、注力する4分野に適した生産体制を再構築。
 - 基板実装組立ユニット加工区/モジュール系
OBU, 車載、遊技機、癒し型ロボット他(民生機器)
 - 産業機器/社会インフラ系(社会生活)
検査機器、医療機器、交通信号、災害・防災機器
 - 機構組立加工区/筐体ハウジング系
半導体製造装置
 - 防災/自然災害対応電子機器系

開発製造型EMS/ビジネスモデル

- 組織的かつ戦略的営業体制の構築による高付加価値案件の受注獲得を目指す。
- 各製造拠点が属する産業クラスターの特性に応じた営業展開
 - 日本国内:社会生活、産業機器、医療機器
 - 中国無錫:車載、産業機器
 - 中国深圳:OBU、社会生活
 - タイ:車載、社会生活

鉛フリー基板実装



MFP



電源開発



半導体製造装置



車載関連



レーザービームプリンター



交換レンズ



信号機



産業機器



医療関連

大型基板実装

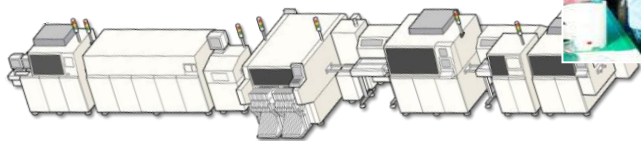


ハンディターミナル

中長期的な会社の経営戦略(3力年中期事業計画-4)

製造力強化

- 品質:もう一段レベルアップした品質保証体制の確立
 - 顧客の高い品質要求レベルを満たすための品質保証体制を確立するため、全社的な品質改善活動としてものづくりの原理・原則に基づく継続的かつ発展的な工場品質向上に向けた改善活動
 - 特定業種向けのISOマネジメントシステムの取得準備開始
- 環境:組織的に環境関連法規を遵守する体制の構築
 - グループとして迅速かつ効率的に環境対策に取り組む事ができる体制を構築し、当社の強み=顧客からの信用力UP、各種環境関連法規対策(=潜在的リスクの軽減)
 - ISO14001のマネジメントシステムを活用した全社的な管理体制の構築徹底



調達力強化

- 調達力強化による顧客満足度UP
 - 内外調達拠点の情報共有化を推進、顧客満足度の高いヴァリュー・エンジニアリング(VE)提案を行い、顧客満足度の高いEMSを目指す
 - 顧客生産変動の早期キャッチ能力を高め、適時・適正に部材を購入することで在庫削減を実現、在庫コスト削減を図る
 - 外部ノウハウの早期取り込み検討



ご注意事項

本件資料は、投資家の皆様の参考に資するため、株式会社大日光・エンジニアリング(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成いたしましたものです。

資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢、及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に際しての最終的なご判断は、ご自身のご判断でなされますようお願い申し上げます。

株式会社 大日光・エンジニアリング
経営企画室 電話 0288-26-3930